

## ナガサキからの平和アピール

2025年、戦後・被爆80年。

1945年8月9日11時2分。一発の原子爆弾が7万人を超える尊い命を奪い去り、長崎の街を地獄と化した。その後も無数の人々を苦しめ続け、80年経っても、その傷は癒えない。

「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャ」。この言葉は、核兵器なんてものが存在しない世界を願う被爆者の心からの叫びだ。

しかし、被爆者の「三度（みたび）繰り返させない」との強い思いに反し、人類はいまだに「核兵器のある世界」に住み続けている。現在、世界には約12,000発の核弾頭が存在し、ウクライナを侵略するロシアによる「核の威嚇」、中東における紛争の拡大など、世界の平和と安全が大きく脅かされている。

戦後・被爆80年が経過し、戦争の記憶が風化しつつあるなか、戦争の悲惨さ愚かさを忘れることなく、平和の尊さを、未来（あした）を生きる次世代に継承し、平和をまもる不断の努力を続けていかなければならない。

昨年末、「日本被団協」が長年にわたる核兵器の非人道性の訴えと平和への歩みが評価され、ノーベル平和賞を受賞した。この受賞は、私たちに希望の光を与え、同時に国際社会に対し、「核兵器禁止条約」への早期署名・批准を求める大きな声となった。

平和な未来（あした）を築くため、国際社会は、対話と連携を強化し、核兵器廃絶への具体的な行動を進める責任がある。核兵器保有国を含むすべての国際社会のリーダーには、「核抑止論」に依存することなく、核兵器廃絶に向けた明確なイニシアチブと責任ある行動を強く求める。そして唯一の戦争被爆国である日本政府は、「核兵器のない世界」の実現に向けて、自らの役割と責任を積極的に果たす時である。

連合は、原水禁、KAKKINと連帯し、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、2026年に開催される核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議に向けて、構成組織・地方連合会・国際労働組合総連合（ITUC）・関係団体とともに「核兵器廃絶1000万署名」と国内外の世論喚起に取り組んでいく。

私たちはこれからも、平和首長会議、長崎大学や長崎外国語大学などの教育機関、関係NGOとの連携を通じて、平和を願うすべての仲間の力を結集し、粘り強く運動を続けていくことを、戦後・被爆80年の節目にあらためて誓い合い、ここに宣言する。

2025年8月8日  
連合2025平和ナガサキ集会